

# 思い出NAVI

～昔の街の風景を見て、街を身近に感じたい～

## 1. 提案の背景

都会の街の風景は変わりやすい。少し前まであった雰囲気の良い屋敷が100円パーキングに変わっていること、好きだった路地の店がいつの間にか商業ビルに立て替えられていることなんか、ザラにある。そして、自分が好きだった境界の空間を忘れ、いつしか変わってしまった街の風景に慣れていくのだ。

埋め立てられた海岸沿いの街は様変わりも大きい。小倉駅北側の砂津港が、昔はきれいな砂浜で、おばあちゃん達が子供の頃、海水浴をしていたなんて！

驚いたが、当時の写真を見せられて納得した。本当にきれいな砂浜だったのだ。

写真を見ながら、「海沿いの大通りの砂利道でよく遊んだ」、「ここには見事な松の木があった」などという話を聞くと、当時のことを知らないのに、なぜか懐かしい。住んだことのない街にも、なんだか愛着が湧くような気がする。散歩や買い物の中に、昔の街の様子が分かれると面白い。ぶらりと訪れた観光客にも評判がいいのではないかな。

そんなことを思いながら、街の昔の風景写真を今の景色と合わせて見ることができる「思い出NAVI」の提案を行うことにした。



大正末の小倉の海岸

画像出展：写真集福岡100年

## 2. 提案内容

### 「思い出NAVI」の仕組み

地元の人に、昔の街の様子がわかる古い写真を持ち寄ってもらう。

写真をエリアごと、年代ごとに分類し、短い説明文をつける（例えば、昭和40年頃の地区。角の理髪店は今も営業中など）

歩行者が立ち止まっても安全な場所を選んで、街路灯や電柱に小型のプロジェクター装置（約3万円/基）を取り付ける。電源は照明柱などから分岐し、人が通ると電源が入るセンサー型のスイッチを設置する。

1地点につき5～10枚程度の写真を古い年代順にスライドショーとして編集。民地の壁や塀、歩道、橋、商店街のシャッター、水のスクリーンなどに投影する。（効果的な投影時間は夕方以降だが、商店街アーケード内などでは日中も投影可能）

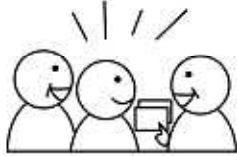
観光客用に投影場所を「思い出NAVIマップ」に落とし、公共施設のほか、街の飲食店、商店などで配布する。

歩行者が多い場所のうち、メインとなる数箇所を選んで昔の街の様子が分かる音声（例えば、バナナのたたき売り）や当時流行っていたレコードを流す。

## 思い出NAVIの仕組みフロー図

### ①思い出を持ち寄る

- ・街の様子がわかる古い写真を持ち寄り、年代で分類
- ・写真ごとに説明文（キャプション）を付ける



昭和14年の〇〇商店街。日中戦争中だが賑わっていた。和服姿が多い。



昭和20年戦災後の〇〇ビル前。ビルは焼け残っている。



キャプション

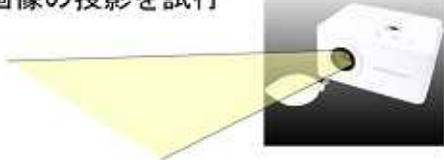
写真をスライドショーに編集

### ②現在の様子の確認

- ・写真の現在の場所に行き、現地を確認
- ・歩行者が立ち止まっても安全な場所を選ぶ（広い歩道のある所などで平らな投影場所があるところ）

### ③小型プロジェクターの設置

- ・設置箇所を道路管理者等と調整
- ・小型プロジェクター（約3万円/基）を街路灯などに設置
- ・画像の投影を試行



### ④思い出NAVIマップの作成

- ・設置箇所を地図に落としたマップを作成
- ・駅・役所などの公共施設や飲食店、商店で配布してもらうよう依頼



### ⑤思い出NAVIの運用スタート

- ・地元住民、観光客などへのPR
- ・街めぐりモニターツアーの実施
- ・機材の維持・管理

昔の街画像出展：写真集福岡100年

## 思い出NAVIの投影イメージ(1)



## 思い出NAVIの投影イメージ(2)



昔の街画像出展：写真集福岡 100 年

### 「思い出NAVI」の活用事例

- ・ 子供と親と一緒に街の歴史を知る学習素材として活用
- ・ 地元の人が街の魅力を再発見するきっかけづくりに
- ・ 観光で訪れた人や、移り住んで間もない人が街に愛着が湧くきっかけづくりに
- ・ 写真の説明文を多国語表記にすると、外国人観光客への対応も可能
- ・ 夜間投影の照明効果で街が明るくなり、事件・事故の減少へつながる など

「思い出NAVI」は、案内板の設置と比較すると低価格で整備することができ、プロジェクターの表示内容に矢印や誘導施設名等を追加すれば、案内サインの役割を果たすことも可能である。

また、スクリーンとなる条件さえ合えば、どんな場所にも投影できるため、様々な地域で「地域おこしのツール」として展開できそうだ。さらに、スライドショーの画像に企業広告を1枚入れると企業からの出資も期待できる。

しかし、地域住民との協議や機材の維持管理をどうするかなどの課題もある。現段階での課題と対応案をまとめると、次のようになる。

「思い出NAVI」の実施に向けての課題と対応案

対象	課題	対応案
住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真提供・コメントの募集</li> <li>投影場所の提供</li> <li>音声発生箇所の調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップの開催</li> <li>説明会の実施</li> </ul>
自治体・道路管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクター取り付け場所の調整</li> <li>電源の分岐先、電源費用の分担調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関を集めた協議の実施（維持管理費用や体制等）</li> </ul>
商店・企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>投影場所の提供</li> <li>機材維持管理費用のスポンサー探し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力の依頼、説明会の実施</li> </ul>
機材業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクターの防水、防犯対策</li> <li>感应型スイッチ(センサー等)の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議後、実験試行</li> </ul>

### 3. おわりに

今回の提案ではプロジェクターを使用する案としたが、機材は他のものを利用してよい。地域みんなが一体化するための心の拠り所として機能してくれれば、機材は何でもよいのだ。「思い出NAVI」をきっかけにみんなが結束して、まちおこしの機運を高めることにつながれば…。

今、通っている道は江戸時代からある道だった、あの建物は明治時代からある古いものなんだ、この橋は昔、木の橋だったんだ…など、街の小さな発見、驚きがそこかしこに散らばると街を歩くことが楽しくなるだろう。

地域の歴史や物語は、様々な世代の感情に訴える力があるに違いない。

これにより、その場所を通った人達が「そこに居た、そこで暮らした ある人の思い出」を共有化し、今よりもっと街が好きになるきっかけづくりができればと思う。